

令和5年度卒業式 校長式辞

大手門の桜の芽も日ごとに膨らみ、春の訪れを感じる今日の良き日に、御来賓並びに保護者の皆様、それに四年振りに卒業五十周年の卒業生の皆様に御臨席を賜り、愛媛県立西条高等学校、第百二十四回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、この上ない喜びであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました二百四十三名の皆さん、卒業おめでとう。心からお祝いを申し上げます。また、この日を待ち望んでこられました保護者の皆様方に、心よりお喜びを申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、この三年間はどうかだったでしょうか。五月にやっと五類に分類されたコロナ禍の影響は少なくなかったと思いますが、皆さんは確実に伝統ある本校の歴史に、新たな足跡を刻んでくれました。皆さんを誇りに思うと同時に、心から賞賛したいと思います。

本校は、今年度からスーパーサイエンスハイスクールSSHⅡ期に採択されました。それは、SSHのスーパーな学びきっかけにして、大きな夢や志を持つ生徒が現れ、驚異的な伸びを示してくれる例が後を絶たなかったからだと思っています。

フランスの詩人ルイ・アラゴンは「教育とは夢を語ること。学ぶとは真実を胸に刻むこと。」と言いました。本校では、SSHのスーパーな学びを理系だけではなく、文系や商業科でも行い、夢や志を見つけるきっかけとしてきました。その結果、本物の夢や志を見つけた生徒の中に、ミラクルと言っている伸びを示す生徒が次々と現れました。そして現在、皆さんのお陰で、本校は目覚ましいV字回復を遂げています。

ここで六〇年前、アメリカで人種差別と闘っていたキング牧師が行った有名な演説を御紹介します。キング牧師は「I have a dream・・・」と語り出しました。「私には夢がある。私の幼い四人の子供たちが、肌の色によってではなく、人格そのものによって評価してもらえる国に住む夢だ。」と続きます。黒人差別が色濃く残っていた当時のアメリカでは、誰もが実現不可能と思った夢でしたが、キング牧師は弾圧を受けながらも非暴力の闘いを続け、人々の心を動かし、アメリカは変わりました。その後、キング牧師は、ノーベル平和賞を受賞するも、凶弾に倒れ志半ばでこの世を去りましたが、世界中がその早すぎる死を悼みました。誰もが不可能と思われる夢も、そもそもそれが正しい志、即ち「真実」であれば、不可能を可能に変えることができることを示してくれました。

SSHの学びの中心は課題研究です。皆さんは、主体的に課題を見つけ、その解決の方法を考え、仲間や専門家の力を活用して協働し、解決していくスーパーな学びをしてきました。そこには正解はなかったかもしれませんが。社会に出てからの問いの多くがそうであるように、正解がないかもしれない課題に取り組むときには、正解はないが納得解があります。納得解を得るためには、自分だけでできなければ、他人の力を借りればいいのです。むしろ、自分とは違った考えの人や自分より優れた知識や能力を持っている人の力を借りて、思考し、判断し、表現することによってのみイノベーションが生まれ、期待以上の成果が得られたりします。ですから新しい世界に足を踏み入れる卒業生の皆さんには、出会いを大切にしてほしいと思います。

人は一人では生きられません。ドイツの詩人ティートゲは「喜びを人に分かつと喜びは二倍になる。苦しみを人に分かつと苦しみは半分になる。」と言っています。共に喜びを分かちあい、共

に悲しみを分かち合う友人を持つことは、人間にとって最大の宝物を手にしたことになると思います。皆さんがこの三年間で得た友人との間で「共に喜び、共に泣いた」経験は、おそらく何十年経っても色あせることはないでしょう。そして、その生き証人として、五十年後にこうして、本校の卒業式に参加し、未来の後輩を激励してほしいと思います。

終わりにになりましたが、これまで、皆さんを育み見守ってこられた保護者の皆様に、重ねて、心からの敬意と感謝を表します。名残は尽きませんが、巣立ちゆく卒業生の皆さんのお幸せと御活躍をお祈りし、式辞といたします。

令和六年三月一日

愛媛県立西条高等学校長

丸尾 秀樹